

## 99.6.6 竜野の永富家住宅で行われたお茶会に行ってきました

昨年のあやめ会はニーゼルさんが席主をつとめられたのですが、今年のあやめ会はニーゼルさんが主客のとして出席されるので、うしろについて出席させていただきました。

今年の席主は、岩崎さんで本を出版されたり、お茶事の写真集に採り上げられるお茶数寄な方です。今回のテーマは「時弊慨嘆(じへいがいたん)」とのことです。

寄付、待合の順に拝見し濃茶席に。床には一休禅師の墨跡が飾られていました。この墨跡が時弊慨嘆の偈文とのことです。大変力強い墨跡です。席主の岩崎さんが入れ「初にお目にかかります岩崎でございます。お会いでき光栄です...」(若干違うかもしれませんが)という挨拶から濃茶席がはじまりました。僕はニーゼルさんから岩崎さんのことをよく聞いていたので、面識のある方だと思っていたのですがこの席で初めて会われたということでした。互いに名前を知ってから10年ほど経ったとのことです。お茶は人との出会い、道具との出逢いがおもしろいといいますが、ニーゼルさんと岩崎さんの感動的な出会いに同席させていただいたのです。素晴らしかったのですがこの感動は居合わせないと感じられないと思います。すばらしかった。(ひつこいですね)

濃茶席の釜は古芦屋の霰釜で大切に使われてきたようきれいな釜なのですが、長年使われてきた深さも発している釜です。

薄茶をいただき、食事をいただきましたのしい一日を過ごさせていただきました。

待合いの軸は、皇帝にまちがいと提言した官吏が地方に左遷され雪山を越えて行くという中国の故事を描いたものでした。濃茶席の軸は当時禅寺として最も力を持っていた大徳寺には光(仏?)が見えない、そして(素晴らしい)人はいないということを書かれたものでした。現在が世紀末のともでもない状態であるの事を憂い選ばれたとのことです。(岩崎さんの挨拶文を引用すると「...一休禅師の、当世室町仏教の墮落を怒る激しい筆勢の墨跡を置き.....折しも世紀末の現世は、一休禅師今在らば目をむいて叱咤されるであろう、さらに激しい混乱の末世である」とのことです) 過去を省みて、時代・世の中に流されずに自分なりの正しい方向に進んで行かなければならないと助言していただいているように感じました。